



海のゆりかご通信

第2号
2009.09

JF全漁連 漁政部 環境・生態系チーム

Tel 03(3294)9617 e-mail:gyosei-3@zengyoren.jf-net.ne.jp

保全対策に参加する地域協議会

*9月現在の状況



22道府県 24協議会

北海道	北海道環境・生態系保全対策協議会	滋賀県	滋賀県環境・生態系保全地域協議会
青森県	青森県環境・生態系保全対策地域協議会	京都府	京都府環境・生態系保全対策協議会
岩手県	岩手県環境・生態系保全対策地域協議会	兵庫県	兵庫県豊かな海創生支援協議会
山形県	山形県藻場保全地域協議会	岡山県	日生町地域協議会
福島県	福島県環境・生態系保全地域協議会	広島県	広島県漁場環境・生態系保全協議会
茨城県	日立市環境・生態系保全対策地域協議会	山口県	山口県藻場・干潟保全対策地域協議会
	霞ヶ浦・北浦環境・生態系保全対策地域協議会	愛媛県	愛媛県藻場づくり活動地域協議会
富山県	魚津市漁場環境・生態系保全対策協議会	高知県	高知県環境・生態系保全対策地域協議会
	氷見市漁場環境・生態系保全対策協議会	長崎県	長崎県地域環境・生態系保全活動支援協議会
静岡県	静岡県環境・生態系保全活動支援協議会	大分県	大分県藻場・干潟保全地域協議会
愛知県	愛知県漁場環境・生態系保全対策協議会	鹿児島県	鹿児島県藻場・干潟保全対策協議会
三重県	三重県環境・生態系保全活動支援協議会	沖縄県	沖縄県環境・生態系保全対策地域協議会

保全対策の制度に関する詳しい情報は

「水産庁/環境・生態系保全対策」
サイトまで！

http://www.jfa.maff.go.jp/j/gyoko_gyozyo/sub391.html

話題

『全国の保全対策参加状況』

二〇〇九年四月より水産庁事業「環境・生態系保全対策」がスタートしました。

本対策は、実施主体となる地域協議会を国や地方が連携して支援し、そして地域協議会が、藻場や干潟、浅場、サンゴ礁、ヨシ帯等を保全する活動グループを支援するものです。

現在、北海道から沖縄県までの二二道府県で、二四地域協議会が設立され、この対策に参加しています。

また、支援を受けた活動グループは、

これからは始める保全活動の詳細な計画づくり、保全活動のための必要な藻場や干潟等の現状把握、そして早いところでは、具体的な保全活動を進めています。藻場では、ガラモ場やアラメ・カジメ場を維持・再生するための母藻の設置やウニなどの食害生物の除去、コンブ場の再生をめざした岩盤清掃、アマモ場の維持・再生のための取り組みなど。干潟では、悪化した底質を改善するための耕うん、干潟の水質浄化機能を高める二枚貝にダメージを与えるツメタガイなどの生物の除去など。サンゴ礁やヨシ帯でも、オニヒトデの除去や異常繁茂したホテイアオイなどの外来の競合植物の除去などの取り組みがスタートしようとしています。

現在、藻場や干潟などの生物を育む貴重な資源は、全国的にその面積や機能が減少・低下しています。今後、こうした資源を保全する活動が各地に広がることを期待しています。

情報 『干潟講習会（千葉）の開催』

東京湾を望んで

環境・生態系保全対策に参加する活動グループや参加を検討している方々などを対象に、干潟の技術講習会を九月二日～四日にかけて千葉県木更津市において開催しました。青森・岩手・福島・千葉・東京・愛知・三重・佐賀・大分と全国からご参加いただきました（参加者数二〇人）。

一日目は、東京湾にほど近い木更津市内のホテルで座学。開会挨拶、水産庁と事務局による『環境・生態系保全対策』『サポート推進事業』概要説明の後、いよいよ座学のスタートです。

一番手は『干潟のモニタリング及び保全活動』について。環境・生態系保全対策では、『計画づくり』『モニタリング』『保全活動』の三つを毎年実施する必要があります。その中で、具体的な手法などがイメージしにくいのが『モニタリング』。保全対策の手引書を見ると、日常的・定期的なモニタ



リング、保全活動の効果モニタリング：など色々な説明が並んでいます。このモニタリングの具体的なイメージやノウハウを、座学や実習を通じて活動グループ

の皆さんに充分に理解していただくことが、講習会の大きなねらいの一つです。それぞれのモニタリングの考え方や視点、観察のポイントなどをわかりやすく学ぶことができました。

盤州干潟でのモニタリング体験

二日目は、東京湾に現存する中で最大となる盤州干潟での『モニタリング実習と保全活動の実演』です。座学で学んだことをフィールドで実践しました。まずは日常モニタリング。チェックシートを用いて、干潟の現況の記録のしかたやアオサや貝類など生物の観察のしかたを実体験しながら学びました。続く定期モニタリングでは、地盤高の測定や砂泥の採取方法を体験しました。チェックシートを作れば、調査地点や底質の変化状況など、手軽な方法で干潟の変動の状況、経過を記録していくことができます。

その他にも、江川漁協の組合員によるまき箆を使ったアサリ、バカガイ等の二枚貝の採取とふるい分け作業の実演も行われ、資源調査の一例を体験しました。これは千葉県独自の取組みであり、県内の二枚貝のサイズ別データ



が経年的に蓄積され、資源量解析などに活用されています。このデータ処理に関して、パソコンを利用したデモンストレーションが、午後の室内実習において披露されました。また、底質の粒度分析の一連の作業を実際の分析機器を用いて再現しました。

豊かな環境・生態系の実現に向けて

モニタリング全体の流れ、手法等については様々な講義や野外・室内実習によって参加者の方には理解いただけたことでしょう。また、モニタリングだけではなく、干潟の保全活動にまつわる様々な講義や実習も行われました。市民協働で里海復活を目指すNPOの取り組み、耕うんに関する座学とトラクターによる実演、様々な干潟生物の解説など。そして、三日目に行われた各活動グループからの報告、話題提供では、活発な議論や参加者相互の情報交換が行われました。

多彩なプログラムを学ぶことができた有意義な三日間でした。



今後の講習会の開催予定

保全活動の進め方や技術をみがき、学ぶための講習会は、今後も、干潟だけでなく藻場やサンゴ礁、ヨシ帯を対象に実施します。保全対策に係わる方々等の応募お待ちしております。

講習会開催予定

対象資源	開催期日	会場	開催場所
藻場 (ガラモ場)	09/30~10/02	長崎	新三重地区ほか
干潟	10/05~10/07	愛知	蒲郡地区ほか
干潟	10/19~10/21	大分	中津地区ほか
サンゴ礁	10/28~10/30	沖縄	恩納地区ほか
藻場 (コンブ場)	11月上旬	青森	佐井地区ほか
藻場 (アラメ・カジメ場)	11月上~中旬	静岡	相良地区ほか
藻場 (アマモ場)	未定	神奈川	城ヶ島地区ほか
ヨシ帯	未定	滋賀	彦根地区

詳細情報は！

JF全漁連ホームページ
『環境・生態系保全活動サポート窓口』サイト
http://www.zengyoren.or.jp/env_support/index.html

(問い合わせ)
JF全漁連 漁政部
環境・生態系保全活動サポート窓口
●電話 03-3294-9616
●FAX 03-3294-3347
●e-mail k-support@zengyoren.jf-net.ne.jp

投稿コーナーにああなたの声を届けませんか！

海のゆりかご通信では、読者の皆さまの声を届ける「投稿コーナー」を現在企画中です。通信への感想・意見、また自分たちの浜の状況、取り組み状況などなど、様々な声を編集部へFAXやメールなどお届け下さい。

お問い合わせ

JF全漁連 漁政部 環境・生態系チーム (吉永)

TEL : 03(3294)9616(直通) e-mail : s-yoshinaga@zengyoren.jf-net.ne.jp

Schedule 2009 (環境生態系保全対策 J F 全漁連の取組内容及びスケジュール一覧)

講: 講習会 報: 報告会 誌: 情報誌 H: ホームページ公開 資: 普及資料配布

8月	上旬		誌	情報誌の発行 (海のゆりかご通信)
	中旬		資	ビデオ配布 終了 (ご希望の方、受付ます!)
	下旬		H	情報交換等ホームページ (仮開設)
9月	上旬	講 09/02~04 干潟講習会 終了		(http://hitoumi.jp まだ、工事中が多いです!)
	中旬			
	下旬	講 09/30~10/02 藻場講習会 (長崎県、申込受付中)		
10月	上旬	10/05~07 干潟講習会 (愛知県、申込受付中)	H	情報交換等ホームページ (本開設)
	中旬	10/19~21 干潟講習会 (大分県、申込受付中)	資	ポスター・パンフレット・手帳の配布
	下旬	10/28~30 サンゴ礁講習会 (沖縄県、申込受付中)		
11月	上旬	藻場講習会 (青森県)		
	中旬	藻場講習会 (静岡県)		
	下旬	● ヨシ帯・藻場講習会 (日程未定)		
12月	上旬	報 優良事例報告会		
	中旬	(ブロック大会、in 札幌・名古屋・神戸・福岡予定)		
	下旬			
1月	上旬			
	中旬			
	下旬			
2月	上旬			
	中旬			
	下旬			
3月	上旬	● 優良事例報告会 (中央大会 in 東京)		
	中旬			
	下旬			

編集者日記

盆明けの暑い一日、ヨシ原の画像素材収集のために茨城県の涸沼を訪れた。撮影場所は、茨城県の方に教えてもらったあるポイント。車を、沼の側道にとめ、いざ土手をかけ上がると、目の前に広がるヨシ原。そして、ヨシ原の前で、多くの漁師さんが舟の上からシジミ漁を行っていた。ヨシ原と青い空をせわしなく往来するサギの仲間、じんわりと体重をかけながらシジミ竿を曳く漁師さん、船上にザクザクと水揚げされる漆黒のシジミ。美味そうだ。ところどころ、私にとってヨシ原は、苦い思い出の場もある。数年前の同じように暑い日、私は、涸沼が流入する那珂川のヨシ原の中で生物調査を行っていた。最初は良かった。しかし、ヨシ帯の中心部に入った私は、方向を見失い、迷子になってしまった。歩けど歩けどヨシ帯の縁辺に行き着けない。猛暑の中、ムワッとする独特のヨシ原の中の緑に蒸した暑さに目まいを覚え、泣く泣くヨシ帯の中の溜まり水も飲んだ。不安にかられながら、とにかく陸地を示す目印がないか探し歩いた。ようやくヨシの隙間から運良く電信柱を遠くに発見したときは、本当にホッと、電信柱に感謝した。

夏場のヨシは、ヒトの背丈の倍ぐらい生長しており、その群落の中には、ある種のジャングル。富士の樹海のように、一度迷うとあぶないのだ。ヨシ原の中に入るときは、必ず脱出経路を確保しながら、道なき道を進みましょう。(吉永)

